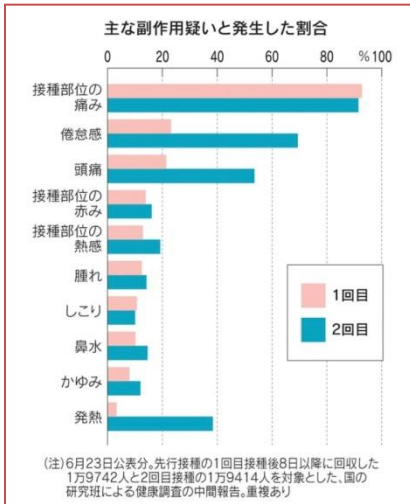


## 新型コロナワクチン職域接種

7月より新型コロナワクチンの職域接種が始まりました。これによって「コロナ終息」への見通しが立つ一方で、ワクチンの副作用を心配する声もあります。厚生労働省によると、6月13日までにファイザー製を接種した約2300万回のうち軽妙なものも含めて約1万3000件の副作用報告がありました。（※死亡者は277人）私たちが接種するのは「モデルナ製」であるため、あくまで参考程度としか言えませんが。

※死亡について、現在、副作用との因果関係は分かっていない

ここで懸念されるのは、「あいつはワクチンを打っていない」といった差別や、職場で「接種率」が貼り出される等の同調圧力により、接種をしていない社員が肩身の狭い思いを強いられるのではないかとことです。当然、ワクチンを打たずして「コロナ」に感染した場合に、「なぜ打たなかったんだ？」と本人を責めるような「ハラスメント」など絶対に許されません。これは、あくまで結果論であって、副作用の方を不安視して接種しなかったという当人の考えは、「任意接種」の主旨からも尊重されなければなりません。



日本経済新聞(6月30日)より

### 青年のひとりごと

以前、「サービス」に関して興味深い話を聞いたことがあります。フランスのとある港町には「顧客の態度」によってコーヒーの値段が異なるカフェが存在するらしく、例えば、顧客が店員に「コーヒー！」とだけ言った場合、その料金は7ユーロ①、「コーヒー下さい！」と注文すると4.25ユーロ②、さらに丁寧に、「こんにちは、コーヒー下さい！」なら1.40ユーロ③といったように、同じコーヒーであっても態度ひとつで700円（日本円換算）ほど節約できたり損したりするそうです。つまり、フランスでは「顧客と店員は対等な立場である」という思想が深く根付いているわけですね。これに倣って、私たちとしても、事前に切符を買わずに乗車しておきながら、敵意剥き出しでお金を渡してくるような方には、無言で切符を差し出すくらいのことにはしたいのですが、こうした話をすると、「ここは日本だ！どんなお客さまであっても差別することなく、心の込もった接客をするのがわが国の常識だ！」といったワンパターンな反応が返ってきます。しかし、これは論理としておかしい。某カフェのように、顧客の態度によってこちらもそれ相応の姿勢で接したくなるのは国籍問わず人間の本心です。言ってしまうと、このとき、店員側のサービスが良くても悪くても「心が込もっている」ことに変わりありません。そのため、③の状態だけを「心が込もっている」と定義するのは土台無理な話であって、仮に、全てのお客さまに本心から③のサービスを提供するとなると、同時に、全てのお客さまにも相応の品性やマナーが求められるわけで、「顧客の態度に関係なく」という話になれば、それはもはや「役者」としての演技力の問題になります。当然ですが、「心の込もった接客」において「日本一」であるためには、同時に、「お客さま」の質も高い水準に達しているかどうかの視点も不可欠であり、どこかの会社のように「ご意見」と「イチャモン」を同列に扱うなど強力な現実の否認であり、「サービス」でカムフラージュされた一種のナルシシズムともいえます。

### ○当面する行動

- 7月16日(金) 18:30~/原水禁実行委員会 福教組中部事務所にて
- 7月17日(土) 13:30~/高校生無償化裁判・最高裁の上告棄却に抗議する福岡県民集会九州朝鮮中高級学校にて